

インターネットを利用した布教の実態調査(2) ----電子メールによるアンケートより----〔結果速報〕

貞昌院副住職 亀野哲也

調査対象	ホームページを運営しメールアドレスを公開している伝統仏教寺院	338件
調査方法	電子メールによるアンケート配信	
有効回答	104件(31%)	
実施日時	平成13年9月24日	

アンケート設問

現在運営しているホームページについて質問させていただきます

ホームページを公開したのはいつですか

ホームページの作成者はどなたでしょうか (該当に)

()住職 ()副住職 ()家族 ()檀信徒 ()その他

コンピュータ歴はどれ位でしょうか ()年

インターネットをはじめてから何年になりますか ()年

インターネットを月何時間程度利用しますか ()時間

インターネット接続の環境を教えてください(該当に)

()ダイヤルアップ ()ISDN ()ADSL ()CATV ()光ファイバー

()専用線 ()PHS ()その他 ()

インターネットに関わる費用は幾らですか

ホームページ作成・運営に関わる費用 ()円/月

プロバイダ料・通信料金の合計 ()円/月

今までインターネットを閲覧・運営してみて、以下の事が受け入れられると思うかを()内に数字でお答えください。

(1:全く不可能・無効果~5:充分可能・効果的の5段階評価)

()お寺、住職を身近にする ()世界へむけた情報発信

()若い世代へのアピール ()檀信徒へのアピール

()宗派を超えた意志疎通 ()祈祷、祈願

()人生相談 ()おみくじなどの占い

()檀信徒の獲得 ()バーチャル参拝

()ペットの仮想墓地 ()人間の仮想墓地

()実体の無い宗教団体による宗教活動 ()読経

インターネットの利点について感じる事をお教え下さい(ご自由に、何文字でも)

インターネットの欠点について感じる事をお教え下さい(ご自由に、何文字でも)

ホームページで工夫していることを教えてください

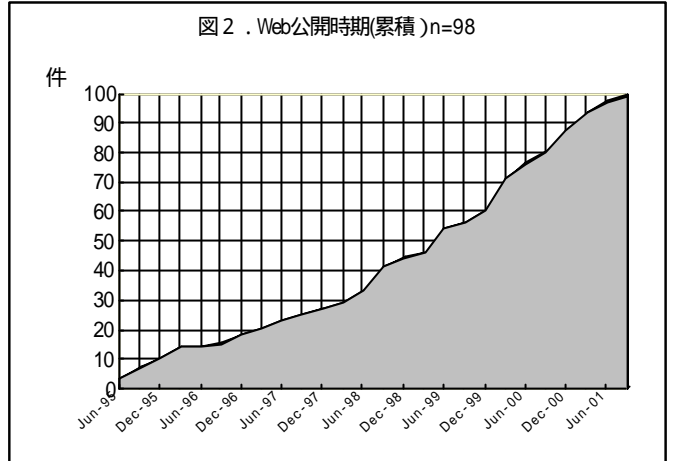
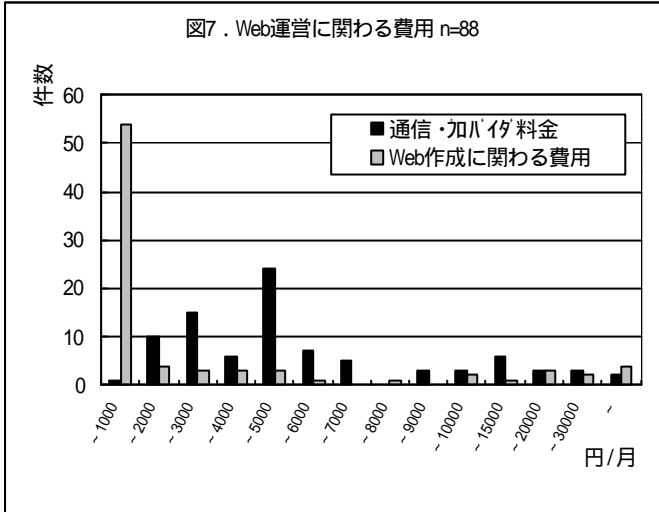
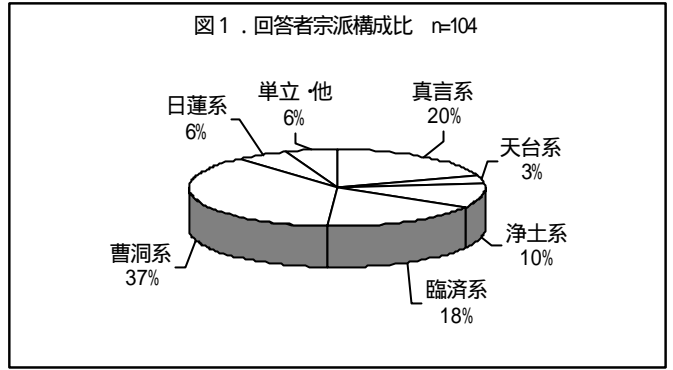
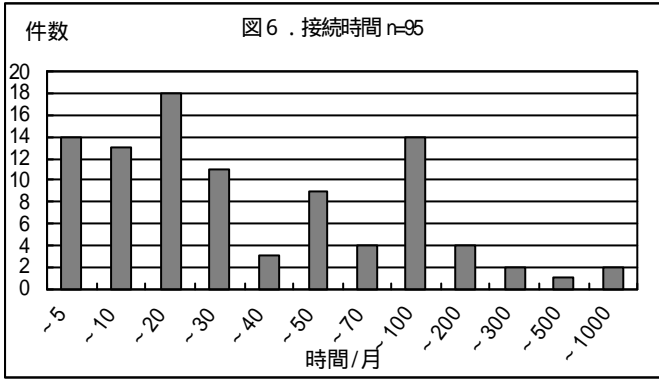
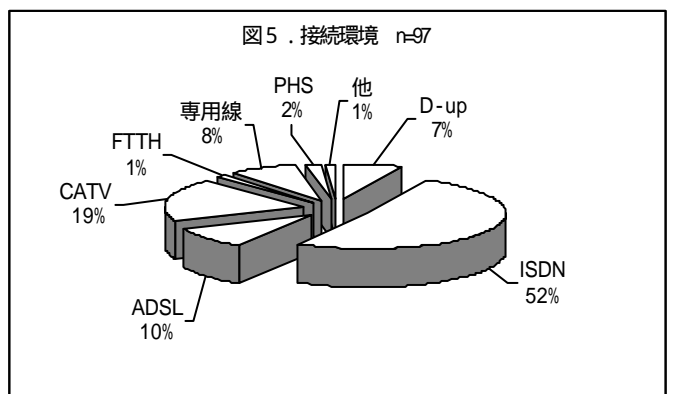
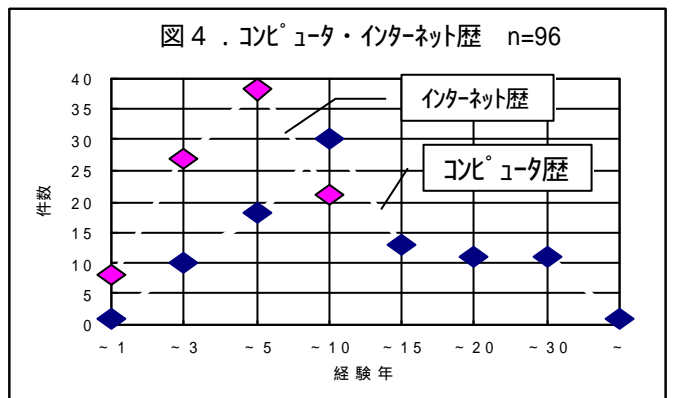
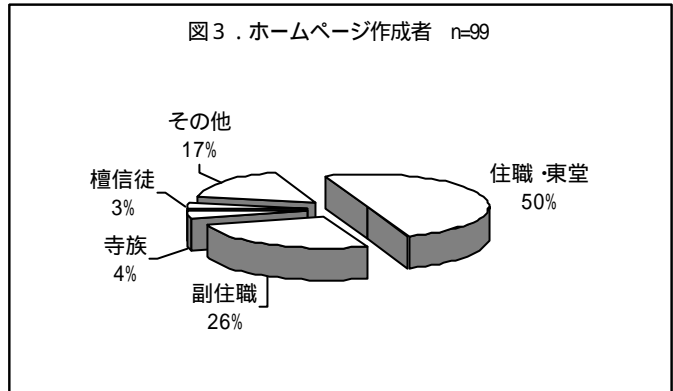
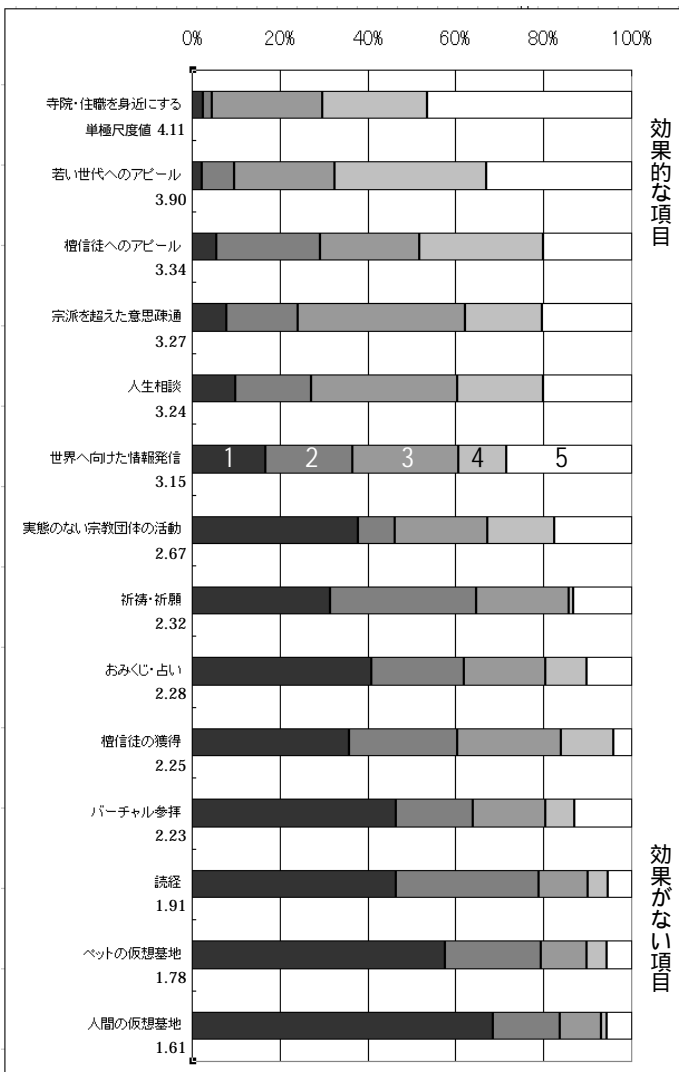


図8. 効果についての評価 n=88



インターネットの利点

費用が安い 自由に情報発信できる 気軽

- ・常時接続が当然になれば、テレビ布教的感覚で展開できる。費用的に大変安価に済むので、その点が良いのではないかと。
- ・安いコストで、情報発信できる
- ・すべて自己責任においてサイトを公開できる。自由闊達。
- ・無料のサイトに来てもらえる。
- ・最新の情報発信。寺院が単なる風景でなく、布教教化に発揮。
- ・インターネットってこんな世界に似ている
- ・情報発信が手軽である。
- ・低コストでの布教、信者通信、信者との緊密度、早い反応。
- ・ネットを利用すると少しの費用で十分な情報を与えられる
- ・無料で宣伝する事ができ、またユーザーにとっても調べたい事だけを詳しく調べる事が出来ること。
- ・簡単・手軽に情報発信ができる。
- ・特定多数の人に公平に情報が提供できること（PCが見られない人に対しては不公平かもしれませんが...）
- ・誰でも簡単に情報を発信できる
- ・不特定多数の人に伝える事が出来る
- ・個人による多数への広報が可能

時間に制約されない 空間的距離の克服

- ・時間・空間的距離を克服する
- ・同じ布教の説明を求めている人にとって出来ることは大きい
- ・24時間体制
- ・遠隔地とのコミュニケーション
- ・時を選ばずタイムリーに対応できることは素晴らしい
- ・日本中に寺の存在をあきらかにできる。
- ・時間空間を越えて意思の疎通ができる。
- ・どんな時間でも自分の好きな時間に見れる。
- ・日本中や世界中に意見を表明できる可能性がインターネットによってやっとならなくなった。
- ・いつでも時間にとらわれずに情報を得ることができるという利便性
- ・過疎地にある山寺なので、宗教活動が限定されている。
- ・そのような中で、新しい檀家以外の方と、宗教的な交流を結ぶようになった。
- ・広範囲の多くの人が見てくれる。
- ・誰でも、いつでも自由に閲覧、こちらの情報を自由に発信できる。
- ・お寺を身近に感じていただける。
- ・時間を縛られないでコミュニケーションが出来る。
- ・遠方信徒との身近な接点をもて、離檀の加速を防げる。
- ・地域限定の情報発信をしており、当町出身の人達がよくアクセスしているようで、盆正月に帰省して来た時、大変感謝されている。
- ・若い人からお年寄りまで時間を気にせず布教が出来る。
- ・お寺の窓口が広がった。
- ・地方に住んでいても、自分の意見を発表できる。
- ・檀家の若い世代の興味を持ったときに、見れる
- ・迷惑でない好きな時間に受信ができる
- ・受信者が自分の好きな時間に情報を取得できること
- ・遠方の檀信徒に対してお寺の情報を知らせるには良い手段。
- ・遠隔制作ができる
- ・遠方の方にもお寺の情報をダイレクトに伝えることができる
- ・檀家で外国へ行かれた人も見ている。
- ・時間を選べない、-----送り手にしても、受け手にしても。

情報伝達の速さ 双方向性

- ・情報の早さと、双方向性に関しては、他の媒体よりも優れている。
- ・速さ、とにかく速く情報を届かされる。メーリングリストは、インターネットで最も有意義な活用方法だと思っ
- ・対面式の会話と異なり、適切なコンテンツの作成・

更新さえできれば時間・空間に束縛されない法話が可能となる。

- ・迅速な情報の収集。
- ・伝達が早い
- ・お寺のウェブサイトも作っていますが、それよりも真正やイベントなどリアルに案内できます。
- ・情報の速報性がある
- ・配信・更新が早い
- ・面と向かって質問しにくい様なことでも、メールで意見交流できる。
- ・比較的生声をかけづらいと思われている方もHPを通じてメールをいただけるので、交流ができる。
- ・リアルタイムで情報を発信できるので、現在の状況を伝えられる。
- ・迅速に情報伝達・習得が出来る。
- ・即時に広報に統一された情報を流せること。また、メールなどによる双方向性。
- ・最新情報が載せられる
- ・電子メール等により、見ず知らずの方や初対面の方とも容易にコミュニケーションが図れる。
- ・今までの教化方法（口話とか文章など）以上に多くの人たちに発信することができる。
- ・情報を得る、ときには、すぐ得ることができる。
- ・いち早く情報を伝達出来る

情報の検索性、情報の共有

- ・必要な情報を容易に得ることが出来る。
- ・調べごとにも便利。百科事典代わり。情報伝達。
- ・情報収集が容易
- ・電話が普及したときの電話帳のようにインターネット世界ではホームページが同様の役割となる。
- ・情報収集の道具としては絶対。
- ・また自分も多くの智慧をインターネットを経由して享受している点はとでも感謝している。
- ・視覚効果がある。検索エンジンの充実など
- ・キーワードを使って、大きな網をひくことができる。
- ・専門的な佛教資料の公開。
- ・情報の発信、収集が容易にできること。
- ・遠方や海外の地廻りやウェブサイトには載らない寺院などの詳細（歴史・由来等）を知ることができる（見聞が広がる）
- ・なにより普段の生活ではまず接することのない他宗教宗派の人たちと語り合う機会となるのは非常に有益。
- ・経典等のデータが自由にやりとりできるのも魅力。

効果が見える

- ・HP作成しなれば0であった物がたとえ1の実績があったとしてもその差は大きい。
- ・坐禅会などへの参加報告が結構ある。
- ・リンクにより、より多くの方々に閲覧頂けたこと。
- ・高校生の方からも、坐禅についてお問い合わせを頂けたこと。
- ・広報機能としてのホームページはかなり有効で有ると思っ
- ・閲覧数が少なくても寺院のホームページはそれを必要とする人がおとすります。
- ・情報を欲しい人に対してピンポイントで情報が伝達出来る非常に優れた利点があります。
- ・ホームページを見ての法要の依頼です、平均月に一件ほど、これは東京と言う大都市でも、他の媒体（電話帳）よりも優れた費用対効果があるといえます。
- ・カタログの代わりとしての価値は十分にありま
- ・知らない人、組織などを結びつけることが可能
- ・埼玉の高校がインターネットの課外学習で参拝に見えたり、塔婆の依頼が FAX ではなく mail で来たりします。
- ・住職が多角的に勉強の環境を追求する事が出来ると思っ
- ・けっこう読んでくれる人がいる。
- ・寺宛連絡を広く伝える事が出来る。ホームページを見て参禅を始めた人も有りま
- ・住職の姿勢を広く理解させる事が出来る事
- ・誤解や勘違いを軽減させて本来の意見や考えを述べられその感想も聞く事が出来る
- ・写真を掲載すると、檀家さんが喜ぶ
- ・自分自身もインターネットをやり始めて確信が広がった。坐禅会など参り事などの参加希望者が増えた。
- ・檀家に限らず方との接触がある
- ・普段、仕事等で忙しい方が身近になれるようになるのではないかと
- ・不特定多数の方々の接触
- ・意外な人から直接親しく話しかけられる事があります。意外と見てもらっ

- ・話のきっかけを作ってくれる。
- ・最近、意外と高齢の人が見てくれます。
- ・メールも結構、いただける。
- ・法要の申込や塔婆の申込など積極的に檀信徒に対してメールアドレスを公開しているからか、その利用数はかなりになります。また意外に年輩の利用者が多いのにも驚きました。

内在する可能性の大きさ

- ・まもなく24時間中継で動画が流せる環境が実現するので、楽しみをしています。
- ・情報発信の手段として活用できれば今まで以上に
- ・お寺を身近に感じてもらえると思っ
- ・宗教に限らず、使い易次第で、利点はいくらでもあると思っ
- ・個人の放送局から発信する個人の現場からの叫びは新しい方の注入となると思っ
- ・これからの世代に向けて、有効な布教教化の方法だと思っ
- ・若い世代との接点となると思っ
- ・オンラインで専断して作業ができる
- ・宗教法人としてインターネットの利用には無限の可能性を感じる。
- ・寺に無関心な若い世代層でも、パソコンを駆使できる世代のために寺のPRをインターネットを通してすることが出来る。
- ・今や大変身近なものとなり、老若男女問わず、ますます普及していくと思っ
- ・また、「世間の隅隅に届く」といっ、お寺本来の仕事が出来ること。これが一番の利点だと思っ
- ・将来実現できたらいいと思っ話だが、地方にいても宗務行との直接のやり取りが可能となれば、時間、経費そして意思疎通の面でも共有が図れる。
- ・特に人権問題等、情報の共有が必要であると感じる。
- ・耳の不自由な方の、情報交換手段として有効。
- ・宗旨の根幹を説くべき布教活動には、最大のツールとなる
- ・これまでの中央と多数の意見（または商業主義や権威主義）に偏った日本及び世界の情報システムを根拠から変える・そんな期待がインターネットにはある。

その他

- ・法事等の塔婆の施主名をメールしてもらっ事により誤りが少ない
- ・ボーダーレス時代及び少数意見を実現反映させる新しいコミュニケーション手段
- ・寺院のウェブサイト代りに HTML で表示できるので良い
- ・悩み事などの人生相談などにはネット（メール・掲示板）上でたやすく相談できるので良いではないでしょうか。
- ・インターネットを通じて布施、塔婆、供養は、住職のボランティア活動として全額ユニセフに献金している。
- ・檀信徒以外の人からリンクによりアクセスされることがあるのでちょっとした布教の可能性があると
- ・線香の匂いのない環境で、情報を提示できる
- ・情報発信が出来、観光客にも便利
- ・開かれた寺院の形態をもう一度作れるように思っ
- ・現在の寺院は閉鎖的である。
- ・大都会の比較的若い無宗派層（二男・三男）に、面倒な寺との付き合い、無して皆無に任せてもらえる利便を提供して、仏事全般を引受ける工夫をしていること
- ・都会の寺からの檀家離れが加速する中、今後の寺の健全運営にインターネットは欠かせないと思っ
- ・これからはますますインターネットは無視する事は出来なくなっ
- ・また寺族の考えなども、ネット上では匿名性があるので、本音がつかえる。
- ・法要等の準備やお寺での行事をまとめておくことができる。
- ・寺報などでは、すべてしまっ必要ときに手元に無いときが多い
- ・新しく知り合った人にHPを通じて、お寺を紹介できる。
- ・メールがあれば事務連絡が楽
- ・個人的な表現が可能
- ・ホームページを更新するにあたり他寺院が非常に参考になる。
- ・インターネットが普及したなら、インターネットによる檀家等への情報の配信は通信費の節約へとつながっていく

インターネットの欠点

不確かな情報が氾濫

- すべてのページに共通していることが、責任の所在が曖昧で、確かなことと不確かなことが混在している。放送局同様にある意味、ネットでのページ種別は免許料を設けるくらい意識があつてしかるべきではない。
- 多くの情報の中で不信感を与えない情報発信の方法を考えないとかえってマイナスに作用すると思えます。
- 例えば本山と末寺が同位置にあることから教義について不十分な情報発信が末寺から行われる可能性があります。ただ宗門によってインターネットに対する温度差もあり末寺が成長らざるを得ないところもあると思えます。
- 不特定の人が見るので、誤解や過ちのないよう、慎重さが大切。
- 自己責任での運営だから、間違つたことを公開することへの危惧
- 妄想、偽りなどで真実が見えにくい。
- 検索ページなどで調べるとあまりに莫大な検索結果が出てくる為、なかなか調べにくい事
- 匿名性が高く、したがって情報の信用度も高くないこと
- 既成教団としての公式見解を出さねば、誤解を招く恐れがある。
- 信頼性・責任性の問題が欠如されてると思えます。

気軽に相談される

- 重い、わがままな人生相談のメールが来ると対応に困ります。
- でもそれで、先が見えたとの返事があると嬉しいですね。
- HPのメールからの質問に困ることもある。
- アドレスの存在が気さかになる為、 unnecessaryメールが届く。
- 人生相談等は、遊びに等しい者もあり、改めて電話で相談にのめると言うとその後何も言て来ない。
- 質問などを頂く際、相手は速い反応を求めていると思うので、メール等のチェックを欠かさずし、即座に返答しなければならぬ点。(忙しい時期など、返事がどうしても遅れてしまうので、相手に不快感を与えてしまう可能性もあると思えます。)
- メールなどのレスが遅れない。

文字でのやり取りでは意思疎通が難しい

- 実際違わないという文字と写真での交友というのはどうしても意志の疎通にずれが出て、誤解が生じる。
- 誤解や意志が正しく伝わらないことがおおい。特にメールで。
- 言葉は重宝なもので、きれいな言葉美しい言葉など発信できますが、肌で感じる相手の息遣いや、感情などが見えにくい。
- 仏教僧の立場からいえば、漢字の制限が致命的。
- 人間対人間の教化が出来ない。所謂バーチャルなことが欠点。
- 檀家と本堂にパソコンつながりを持つには年がかりの段階です。
- これからの時代は確かにネット布教で迷える衆生を導く僧侶も出てくるでしょう。
- あえていえば僧侶が田舎に閉居すべきということですが。
- 沢山あるが特に文章なので正しく理解されないことがある
- いろいろな人と知り合いになれる可能性はあるが、人と人とがゆるりあるつながりになっていくのが疑問。やはり、お互いに対面し言葉をかわすことに勝るものはないと思えます。
- 気持を解り合うということは難しい。相談を受けても、文字ではなかなか伝わりにくい。
- 議論しても、相手を受け入れようとしていないので、言葉の応酬になり、深まりがない。
- 誤解を生みやすい。
- 使用法や、運用面が問題であり、表現、また使用

できる文字の問題等も今後の問題だと思います。

- ・人間的に成熟度の高い方向性を持つコンテンツを蓄積してないので苦労してる。
- ・お互いの信頼関係を、確立しづらい。
- ・寺の仕事はやはり face to face が大切。お互いに相手がどんな人物か不明な中での布教には限界がある。

匿名性ゆえの欠点

- 匿名性が高いこと「趣味」の域を超えることのむずかしさ
- ・双方向性は優れているものの、法整備が遅れている。
- ・技術的力が先を進んでいるように感じる。
- ・匿名性に裏打ちされた暴言・暴論の氾濫にも眉をひそめるが、それを欠点とみるかどうかは微妙(普段の生活では抑圧されている、人間に普遍的な暗闇が顕わになるといって、それは見ない振りをしておいて良いものでないから)。
- ・便利性及び簡便性の裏に潜む、情報の(思いもよらない)流失や、コミュニケーションの希薄化や、匿名による無責任化の拡大。
- ・相手の顔が見えない
- ・匿名性があるので中傷などしやすい。
- ・相手の表情が見えない
- ・メールで程効があった場合、イタズラなのか真面目なのか判断が難しい。特に、無料メルアドによる発信
- ・顔が見えない、冷やかしい
- ・相手の顔が見えない
- ・相手の顔がみえないので相談や個別の法話には向かないかも知れない
- ・匿名性を利用した不埒な連中が多い
- ・誹謗中傷、うわさなど信憑性のないものでも、多くの人の知るところとなる。
- ・ごみメール。他人の心を大切にしない一方的メールである。
- ・一方通行である。誰が何の目的で見ているかわからない

ウイルス・ハッキング

- ・ウイルスの感染
- ・寺院のサイトを運営していると、心ない書きこみやメールウイルスの添付ファイルで攻撃されるのも辛い。
- ・ハッキングの恐れがある。檀信徒のデータベースなどの非閲覧情報が外部に漏れる恐れがある。
- ・私も昔、ポートスキャンに遭ったが、現行はリモートでウェイクしない様に総電源を別に切っている。
- ・ウイルス等によるデータの破壊、情報の漏洩
- ・便利な一方、非常に危険性も伴っている。例えばウイルス感染、金銭に関する詐欺事件や性犯罪、間接的な中傷や人権侵害など、捌げればきりが無い。
- ・情報が悪用される恐れがある

デジタルデバイド

- ・みんなだれでも自由に使えないこと。情報の伝達度共有するときに使えない人使えない人で、差が出来てしまう
- ・高齢の方が多いと、なかなか閲覧して貰えないという難点がある。
- ・日本では地域によって通信費が違うこと。都市部はフレッツ ADSL やら光ファイバーの廉価の利用が可能だが、地方ではまたにフレッツによる常時定額サービスすら無い。
- ・インターネットをやった人には、効果がない点。
- ・高齢者など、まだ社会に浸透しているとは言いがたい。
- ・高齢者、パソコンを使えない人、所有していない人には残念ながら、見てもらえる環境の人が少ない
- ・まだ、完全に普及していませんが、期待するほど使われていないのが現状の様です。

その他

- ・パソコンの前に座らなければならぬ。
- ・URLをお知らせする機会が少ない。
- ・寺院のHPにかぎって言えば、横並びのページが多く、魅力がないせい、検索エンジンでは間に合わない

- ・感じる。
- ・バクリ(長所でもある)と内容が簡単に流される恐れがある。
- ・熱しやすく冷めやすい
- ・ホームページについては常に新しい情報を提供し続けなければならないことなど
- ・更新に手間がかかる。homepage 作成に慣れるまで少々時間がかかる。
- ・日常的に国際的な mail のやり取りが必要無いのであれば経費面にメリット無し。
- ・パソコン、メール、HPは今の時点では確かに若者の気持ちをとらえお寺に引き寄せるとは成るでしょう。しかし近所の活躍している僧侶はやはり自らおもむいていきます。ですから材料とはなっても必要十分条件にはなりません。
- ・僧自ももっと宗教者として修行という課題を持って生きなければ能書き、話術、集金能力ばかり巧みな僧が多すぎると思えます。
- ・ホームページを更新するのがめんどろ
- ・サイトが多すぎて閲覧してもらえぬ機会がほとんどないだろう
- ・人間レス・対人レスの時代に徐々に進んでいくだろうと思えます。寺院の場合も同じ事が云え、確率的に檀信徒の悩みや相談にのらない都会寺院ほど、檀信徒がお寺に来なくなると思われます。
- ・けっこな経費・時間・手間がかかる
- ・電子チラシ以上の期待はしていません
- ・HPで検索して、セールス、勧誘をする業者が多い
- ・寺の近辺の人なら参詣を勧められるが、世界中の人が相手。檀信徒として獲得するには無理がある。
- ・ホームページがなくなっても構いません。檀信徒が増えようが減ろうと、寺が無くなるうと、そのようなことを考えたこともありません
- ・新しい技術が日々追加されますがなかなか技術を習得する時間が取れない
- ・間違つた布教・間違つた認識を与えないようにするのが大変です。
- ・利用者が少なく、ドットコム企業のようなアクセルを期待できない
- ・今までとはくに感じませんが、ある種のターゲットにされることもあるのではないかと危惧します。
- ・メールアドレスを取得され、不要なメールが増える
- ・掲示板などは取ったほど活用できない
- ・更新が手間
- ・欠点は無いと思う
- ・PRしてなければ、誰にも気付いてもらえないこともある。
- ・仮想空間上の宗教種でも人と関わることが(メールの交換など)多くなるので仕事量が望むだけ増える
- ・ネット上であまり事が済んでしまうと寺への足が遠のいてしまう
- ・プライバシー問題がある。
- ・歴史・由来など自分で努力して(お寺を訪問して)話を聞く機会がなくなる。自宅等で情報が手に入るのには私も便利に感じているが、自分の足で調べる努力、自分の解釈での歴史観、宗教観が乏しくなる(情報の鵜呑み)
- ・お寺に参拝することの意義が薄れないか?
- ・パソコンは道具なのでインターネットにおおることなかれず。
- ・管理の手間をとられる。
- ・本当は人間中心に考えるべきです。
- ・更新のわずらわしさ
- ・インターネットは檀家さんへの文書伝達の余興にすぎません。やっていると話の種になるくらいでしょう

工夫していること

見やすく、親しみやすく

- ・特に工夫はしていないが、単なる寺院紹介はするつもりが無いので、その点留意している。
- ・写真や動画を入れることで「見て楽しい」ホームページを目指します。
- ・宗教的色合いを全面に出すことには禁断的です。
- ・意識的に寺院紹介(観光)に終始することにしていきます。
- ・画像を多めに使用し、見易くしようと心がけている。
- ・HPを開く際に、時勢がかわってしまう欠点もある。
- ・とにかく見やすいこと
- ・宗教といえは我田引水になりがちで、教条的な内容になりがちなので、その部分には気を使いました。
- ・読みやすく、メニューを多く。
- ・中学生程度でも理解できるように内容を考えた。
- ・全体の文字を普通の大きさより大きめに設定をし、音楽を貼付けることによって、お年寄りの方や小さな子供さんに対し見やすく工夫。
- ・仏教に対するハードルを低くするように平易な用語を使用するように心がける。
- ・全国の同宗派に見てもらえるようにそして、檀家さんにも見ってもらえるように工夫しています。
- ・年齢の人でも見やすいよう、単純な構成にしている
- ・仏教専門用語をできる限り使用せず、平易な内容にする事
- ・なるべく画像を汎用して、見やすくしている。
- ・お寺に親しみを持ってもらふこと
- ・できるだけ シンプルに
- ・出来るだけ味香臭くしないこと
- ・仏教に対するハードルを低くするように平易な用語を使用するように心がける。
- ・できるだけ文字を大きくする
- ・色々な環境条件で接続してくるので表示が速く出来る様に単純にシンプルにこだわっている。
- ・一般の人たちばかりがやりやすいこと
- ・今後近所の注目の店などの紹介をしていこうとかんがえています。
- ・トップページから寺院の印象を薄くしている。
- ・お寺=敷居が高い、という認識が一般的なもので、できるだけ「敷居」を感じさせないように。
- ・一方的な、情報・観念の押しつけをしない
- ・アクセスを楽しんでもらえるように
- ・既に完成された宗教を PR するのではなく、相互に自受用三昧を深め、ゼロから自己の宗教を創造する場を提供しようと思っている。
- ・未だ始めばかりでほとんどわかりませんが、動きとリンクをテーマにしたと考えます。
- ・特に工夫していることはありませんが、今後、音声・動画などを取り入れてみたいとおもっています。
- ・幅広い層の方々に親しんでいただける内容にする。
- ・自然な形で宗教を理解していただく。
- ・地域限定の情報発信を念頭しております。
- ・当町出身の人間に情報提供を心がけている。
- ・お寺の堅いイメージではなく、若い世代の人間でも受け入れることが出来るホームページの作成。
- ・若年層が非常に多い為、出来るだけわかりやすい言葉で説明をしている。
- ・見やすいページを目指している。
- ・寺院紹介のみのHPに陥らないように注意している
- ・宗派的で建前論の我田引水の contents にならぬようにしている
- ・写真を増やした
- ・なじみやすさや受け入れやすさを念頭に作成した。
- ・かたくなるし、ホームページとか開くまで時間がかかるホームページを作らないようにしています。
- ・堅苦しくなく、硬軟合わせた内容にした。

更新を頻繁に

- ・ネットがからどうこうというのではなく、要は僧自身に布教する意識があるかどうか最大の課題点
- ・費用や手間がかかるという言い訳で、何もしていない場合が多々見られる

- ・E-mail magazine の継続的発行
- ・まめに更新すること
- ・トップもたまに替えること
- ・絶えず更新する事
- ・法話、お知らせページをまめに更新している。掲示板から情報を発信。
- ・毎月1日に更新しています。内容は法話ですが、これは毎月檀信徒に文書で配布しているものです。
- ・出来るだけ新しい情報を書き込む
- ・何度も開いてくれるように、法話をどんどん入れていきたいと思っております。
- ・内容の定期的更新、年に一度ぐらいの全面リニューアル。
- ・できるだけ新鮮な情報を伝える。
- ・ニーズに答える内容のHPをつくる。
- ・映像や音楽、時折々のタイムリーな内容にしている
- ・更新の定期化。

目的をはっきりさせる

- ・伝えるという根本的な意識を育ててから、こういう問題について考えるべきだと思っています。
- ・ホームページはカウンターが勝負。お客さんが来ないことには無意味。だからといって自分の本意に反して身を削り迎合するHPは長続きしない。
- ・真面目で心に響くHPは地味ながら意味深いものがあり、またそれを求めるのが僧侶も強制的
- ・問い合わせメールの対応について、すべてのメールに返事をするように心がけています。
- ・いろいろなお問い合わせがあり、私どもで対応できないものもあり、お山に調べていただく・役所さんの意見を聞いたりしながら回答しています。
- ・現代は葬儀に金がかかりすぎる。ネットを通じた信徒の会を運営して、入会者に葬儀をはじめ仏事全般を優先的に執行してさしあげられるページを設けている。
- ・お寺のページというよりも、一禅僧の境界というか人柄や芸術をそれとなく伝えるように全体の構成を工夫しています。
- ・祖師方の教えを忠実に伝えたい、分かってくれる人が、わずかであってもよい。
- ・仏教の本質から外れている、現代の既成仏教を少しでも本来のものに近づきたい。
- ・地域の中で存在をアピール。
- ・檀家 信者への利便、法要・回忌・行事等の告知
- ・宗派を越えた地域教会のホームページづくりを始めます。宗派を越えた種別がこれから重要と考えられます。

軽く、汎用的に

- ・なるべく軽く、必要最低限の装飾で古いブラウザでも対応できるようにしています。
- ・画像を読み込むのには時間がかかりそれがタダの飾りでは無意味なだけです。
- ・なるべく軽く、おれなプラグインは使わない。
- ・出来るだけデータを軽くすること、更新をマメにする。

その他

- ・ごく一般的、工夫もなにもなし。
- ・継続力がないと、嘆く毎日。
- ・寺を取り巻く様々な人々のつながりを、広げようとしている。
- ・ネットの仲間どうし意味
- ・色々なHPを拝見していますが、凝っていたりプロが作ったであろうページがたくさんありますが、素人の私に出来る範囲で作成すること
- ・檀家さんに身近に感じてもらう品性を保ちたいと思っております。
- ・技術的を言えば、ハード及びソフトの発達により音声や動画(すなわちバーチャルリアリティ)がHPの主軸になると思うので、それを目指したい。
- ・マイナーなHPを目指している。
- ・ADSLになるとさらに面白いHPが出来るでしょう!
- ・21世紀に対応するためにも、人間が生み出し、ある意味では人間を苦しめることになった科学技術を、今度は人間が大いに使いこなすことが大事だと思う
- ・BGM 掲示板 エスペラントのページ iモード用ペ

ージ等

- ・あくまでも営利目的でホームページを掲載しているのではないのでそのような内容は掲載をしないし、
- ・別段 工夫しているところはないし、
- ・素直に自分の気持ちを表すようにしている。
- ・また、社会的弱者の方のお役に立ちようなサイト運営をしていきたいと思う。
- ・黒の背景は似、と言われた。
- ・紙媒体で作成するのと同じことをしているだけではないして手間をかけないことにしている。
- ・法友とやっている毎月の法話会を掲載することに重点をおいている。
- ・自分自身開いてみて、工夫が足りないと思うけれど、勉強不足を感じています。
- ・客観性を重んじたため、在家の方からの意見を積極的に取り入れている。
- ・地図を工夫している。(写真を貼ったりして)
- ・閲覧する人々が全員ブロードバンドの世界になればコンテンツをおさすべきた。
- ・こここの書換えをサボっていますが、私はホームページは「縁結び」だと思っています。
- ・興味の起らないものにはなれませんが、思っています。
- ・ホームページを作っている人達は、それぞれに工夫努力をして構築しています。中には本当に素晴らしい内容のものもあります。
- ・郵送は数百にもなりますので、郵送料が大変です。しかし、教化費と考えれば、常識範囲内でしょう。
- ・檀家さんに毎月送るということは、たとえ内容が貧弱でも意味があるでしょう。
- ・プロバイダーが宗教的内容はホームページに載せられない契約になっているため、歴史の紹介や、寺報程度は抑えている。
- ・責任を持つべき檀家さんに文書伝道をまずすべきだと思います。
- ・個人的には、上記の活動にインターネットを利用する事には反対である。我々、伝統仏教の布教のメリットより、新興宗教の媒本によりやすいという問題があり、結果的に既存宗教の信者を減少させるであろう。
- ・コンテンツの多様化
- ・客観的といえる情報の提供を心がけ、主観的なこと(信仰告白や、説教じみたこと)は書かないか、その旨を断って書くこと。
- ・なるべく多くリンクを張ること。寺系系のリンクだけはどうしても見る人が限定されるので、豊世開運のリンクを多くしています。見ていただく方の層を広げる為に、今後は、毎月の法話などのページも充実させていく予定です。
- ・人生の避難港でありたいと思っていますので、住職の個人情報公開しています。
- ・javaを使い、HPを開くと著名人の名言が別ウインドウで開くようにしている。
- ・できるだけ、更新しなくて良い内容を対策している。
- ・最悪の条件を本筋として考えている。気軽に作成して欲しく作成しないと管理が楽になる。